

## 医療被ばく研究情報ネットワーク 第15回総会 議事概要

1. 日時 : 2023年5月8日(月)10:00~11:40

2. 場所 : Teams を利用した Web 会議

3. 出席者(敬称略):

### 団体会員

医療放射線防護協議会(菊地透、佐々木康人)

日本医学物理学会(古場裕介)

日本医学放射線学会(粟井和夫)

日本インターベンショナルラジオロジー(赤羽正章)

日本核医学学会(森一晃)

日本核医学技術学会(石黒雅伸)

日本医療画像システム工業会(稲葉潔、桑原健、長束澄也)

日本歯科放射線学会(西川慶一)

日本小児心臓 CT アライアンス(西井達矢)

日本診療放射線技師会(江藤芳浩、鈴木賢昭)

日本放射線影響学会(細谷紀子)

日本放射線技術学会(五十嵐隆元)

日本放射線腫瘍学会(小川和彦)

日本保健物理学会(小野孝二)

日本脳神経血管内治療学会(松丸祐司、盛武敬)

日本乳がん検診精度管理中央機構(斎政廣、西出裕子)

### 個人会員:

細野眞(代表)、神田玲子(副代表)、山口一郎

### オブザーバ:

日本整形外科学会(山下一太)

日本消化器内視鏡学会(竹中完)

厚生労働省(山田貴志、安樂摩美)、他5名

### 事務局:

QST(赤羽、神田、古場、張、仲田)

4. 議題

(1) 前回会合の議事概要(案)の確認

(2) 代表・代表代行の選出(審議事項)

(3) 団体会員の新規加入について(審議事項)

(4) J-RIME と QST 放医研との医療被ばく研究に関する覚書について(報告事項)

(5) DRL-WG の活動状況について(報告事項)

(6) 会員の活動報告(報告事項)

(7) その他

i. DRL-WG,モダリティ別 PT メンバーの COI 申告について

ii. 総会議事概要の公開について

iii. ICRP2023 について

## 5. 配布資料

資料1 J-RIME 第 14 回総会議事概要(案)

資料2 J-RIME 会則

資料3 J-RIME 団体会員リスト

資料4 J-RIME と QST 放医研との医療被ばく研究に関する覚書

資料5-1 医療放射線防護連絡協議会からの報告資料

資料5-2 日本医学物理学会からの報告資料

資料5-3 日本医学放射線学会からの報告資料

資料5-4 日本医学核医学会からの報告資料

資料5-5 日本画像医療システム工業会からの報告資料

資料5-6 日本歯科放射線学会からの報告資料

資料5-7 日本診療放射線技師会からの報告資料

資料5-8 日本乳がん検診精度管理中央機構からの報告資料

資料5-9 日本放射線影響学会からの報告資料

資料5-10 日本放射線技術学会からの報告資料

## 6. 議事

- ・ 細野代表より開会の挨拶が行われた。厚生労働省からの出席されている以下の先生の紹介があり、挨拶が行われた。

○厚生労働省 医政局 地域医療計画課

医療安全推進・医務指導室

医療安全対策専門官

山田 貴志 先生

○厚生労働省 医政局地域医療計画課

医療放射線管理専門官

安樂 摩美 先生

(1) 前回会合の議事概要(案)の確認

- ・ 第 14 回総会(2022 年 5 月 30 日開催)の議事概要(案)の内容が承認された。

(2) 代表・代表代行の選出(審議事項)

- ・ 事務局より資料2の J-RIME 会則に従い、代表および代表代行の選出、任期等の説明が行われた。また、資料3に示す団体会員が参加する総会により承認されることが説明された。
- ・ 今年度から 2 年間の代表として細野氏が推薦され、承認された。
- ・ 細野代表より神田氏が代表代行して推薦され、承認された。

(3) 団体会員の新規加入について(審議事項)

- ・ 細野代表より日本整形外科学会、日本消化器内視鏡学会の 2 団体より新規加入の意向を頂いている旨の説明が行われた。
- ・ 日本整形外科学会の山下氏より挨拶と新規加入の意向が示された。
- ・ 日本消化器内視鏡学会の竹中氏より挨拶と新規加入の意向が示された。
- ・ 日本整形外科学会と日本消化器内視鏡学会の新規加入について、異論なく承認された。
- ・ 日本消化器内視鏡学会について学会の意向としては問題ないが、理事会承認の前であるため、理事会承認後に正式な加入とすることとなった。

(4) J-RIME と QST 放医研との医療被ばく研究に関する覚書について(報告事項)

- ・ 事務局より J-RIME と QST 放医研との医療被ばく研究に関する覚書について、これまでの覚書が平成 28 年度から令和 4 年度までであったため、この度令和 5 年度から令和 12 年度までの 7 年間について覚書の更新を行ったの説明が行われた。

(5) DRL-WG の活動状況について(報告事項)

- ・ 赤羽 DRL-WG 主査より以下のような活動状況について説明が行われた。
  - DRL-WG は 1 月 16 日に次期 DRL の改訂に向けた第一回目の会合を開催した。
  - 本人(赤羽氏)が主査として選出された。
  - WG メンバーに加えて日本整形外科学会、日本消化器内視鏡学会についてもオプザーバ参加いただいた。
  - 次回の DRL の改訂時期は 5 年ごとの改訂として 2025 年を目指す。
  - モダリティのグループは前回は踏襲する。治療治療における CT についても盛り込まれる予定であるが、既存のモダリティの枠組みの中で取り扱う。

- 現在モダリティ毎のプロジェクトチームの参加メンバーを各学協会から募集中であり、今後モダリティ毎のプロジェクトチームにて活動を開始する予定である。

#### (6) 会員の活動報告(報告事項)

- 医療放射線防護連絡協議会(説明者:菊地氏)(資料5-1)
  - 医療放射線安全管理講習会を年2回開催し、DRLs2020の活用を広めた。
  - 年次大会にて我が国の国民線量の算定\*生活環境放射線第3版の概要について講演が行われ、医療被ばくについてはJ-RIME等のデータを利用して算定された。
  - IVRに伴う放射線皮膚障害の防止に関するガイドラインの改訂を18年ぶりに行い、第44回医療放射線安全利用フォーラムにおいて赤羽正章先生よりIVRにおけるDRLの目的・意義について解説が行われた。
- 日本医学物理学会(説明者:古場氏)(資料5-2)
  - 医学物理学会誌2022年6月、9月号にてJSMP放射線防護委員会企画、学会誌特集「医学物理分野に必要な中性子の基礎知識」を掲載した。
  - 2022年4月に開催されたJRC2023, JSMP125では以下の企画を開催した。  
JSMP 防護委員会合同企画 JSMP 防護委員会企画)「線量評価のための計算用人体ファントムの動向と応用研究」
  - ICRP2023の開催に合わせて日本核医学学会・日本核医学技術学会との共催のシンポジウムを企画中
- 日本医学放射線学会(説明者:栗井氏)(資料5-3)
  - 診療用放射線の安全利用に関する研修ビデオを2022年6月に公開した。申請をすれば無料で利用可能である。
  - 会員を対象として放射線防護関連の教育講演を2回開催した。
  - CTにおける線量管理と診断参考レベル運用の実態調査をホームページで公開した。
- 日本IVR学会(説明者:赤羽氏)
  - 6月に開催された技術教育セミナーを開催し、その一つで放射線防護を取り上げた。またこの内容を学会誌にレビューとして近く掲載される予定である。
  - 厚労科研内田班の盛武先生の水晶体・皮膚の実態調査が行われ、多くの会員の参加があった。重篤な水晶体の混濁と白内障などはなかった。
- 日本核医学学会(説明者:森氏)(資料5-4)
  - 令和4年5月に開催された日本核医学学会春季大会にて、「核医学のための診療用放射線の安全利用」の講習を日本核医学技術学会と合同で開催した。
  - DRLs2025のモダリティ別PTに、細野氏、沖崎氏、佐々木氏の3名を推薦した。

- ・ 日本核医学技術学会(説明者:石黒氏)
  - 昨年 11 月の理事会改選に伴い代表が東氏から石黒氏に変更となった。理事長も変更となっている。
  - ICRP2023 のサテライトシンポジウムに共催を行っている。
  - モダリティ別の PT に 4 名参加する予定である。
- ・ 日本医療画像システム工業会(説明者:桑原氏)(資料5-5)
  - 放射線治療装置・核医学装置・放射線線量計に関する国内外規格の動向について以下の報告が行われた。
  - X 線 CT 装置に関する基礎安全及び基本性能に関して CD(委員会原案)を作成中
  - RF システム。IVR についてはコメント取りまとめ中
  - マンモグラフィについては国際規格が制定されたことを受けて JIS 改定を今年度実施予定
  - 歯科用については口内、口外ともに JSI の改訂が開始されている
  - 防護材料については JISC 審議会承認されたため、近々制定予定
  - 放射線治療装置については 2022 年 11 月に制定された。
- ・ 日本歯科放射線学会(説明者:西川氏)(資料5-6)

別途スライド資料を用いて前回、前々回での報告事項のまとめについて説明が行われ、続いて以下の報告が行われた。

  - 2022 年 3 月 31 日に医療用エックス線装置基準が改正され、同日に医療法施行規則が開催された。
  - 改正 JIS はまだ公示されていない。
  - 改正された規格には IEC 規格がそのまま取り入れられた。
  - 施行日は令和 7 年 4 月 1 日ということでまだ猶予期間がある。また、施行日の時点で使用されている装置には新規則は適用しない、として頂けた。
  - 学会のガイドラインの改訂が完成して、学会 WEB ページにアップロードされている。開業歯科医が読む気になる、読んでわかるガイドラインを目標とした。
- ・ 日本小児心臓CTアライアンス(説明者:西井氏)
  - DRLs2025 の CT のプロジェクトチームに参画させていただいた。
  - 独自の小児心臓 CT の被ばく調査を検討していたが、JSRT のプロジェクトチームで行ってみようとなり、その後こちらで行うことを検討している。
- ・ 日本小児放射線学会(説明者:田波氏)
  - 2022 年 6 月 3 日に第 58 回日本小児放射線学会が開催された。毎年恒例のように放射線の被ばくについて講演が行われた。

- ・ 日本診療放射線技師会(説明者:鈴木氏)(資料5-7)
  - 医療放射線安産管理講習会を年 2 回開催し、被ばく線量の最適化と DRL について最適化の手法と DRL の概念について改めて周知を行った。
  - 2022 年 9 月に第 38 回日本診療放射線技師学術大会が開催され、医療放射線被ばくについての5つセッションが行われた。その中で、日本放射線技術学会との合同の企画も開催した。
  - 医療被ばく低減施設認定の認定施設の更新審査をコロナ禍の影響により訪問審査が難しいためオンラインで行い、7 施設の認定更新が行われた。訪問審査が難しいため新規審査については休止している。
  - DRLs2025 のすべてのモダリティのプロジェクトチームに参加する予定である。
- ・ 日本乳がん検診精管理中央機構(説明者:斎氏)(資料5-8)
  - 日本乳がん検診精管理中央機構ではマンモグラフィ施設に対して、線量評価、画質評価を行い、施設認定を行っている。
  - 昨年度の評価台数は 621 台であり、アナログがなくなり、デジタルが 100%となった。その中でもフラットパネルディテクターを用いた DR が 9 割であった。
  - 施設認定は 90%であった。
  - 令和 4 年度の平均乳腺線量の平均値は 1.44mGy、95 パーセントタイル値は 2.10mGy であり、昨年度より若干低減傾向にあった。
  - DRL2020 の平均乳腺線量の分布と比較しても、平均値と 95 パーセントタイル値も減少していることが分かる。
- ・ 日本脳神経内治療学会(説明者:松丸氏)
  - JSNET では毎年 11 月に学術集会を開催しており、昨年度も 11 月に大阪で開催した。
  - 医療従事者からいつも質問されることが多い、妊娠と被ばくに関してダイバーシティ委員会と放射線防護委員会で共同企画としてシンポジウムを開催した。応募演題と講師によるミニ講演の第 1 部とミニ講習会の 2 部構成であった。個人線量計の装着、防護装具の徹底的な装着、女性スタッフに関しては妊娠を管理者に伝えやすい職場環境の整備が望まれるという意見があった。
  - IVR プロジェクトチームのメンバーを選定した。
- ・ 日本放射線影響学会(説明者:細谷氏)(資料5-9)
  - 放射線リスク・防護検討委員会と企画委員会では、2023 年度に「ICRP 次期主報告ウェビナー」を 4 回にわたって開催する。本ウェビナーを通して、放射線防護や ICRP の活動への関心を広げることを考えている。第1回は 4 月 28 日開催し、放射線関連の学会より 300 名近い参加登録があった。

- ・ 日本放射線技術学会(説明者:五十嵐氏)(資料5-10)
  - モダリティ別 PT にはすべてのモダリティにメンバーを出している。
  - 4月の放射線防護フォーラムについて、一般撮影、IVR、マンモグラフィのDRL改訂について会員から意見や要望を聞くために開催した。秋季大会では残りのモダリティ(核医学、診断透視、CT)について開催し、会員から意見を聞く予定。
  - 第31回日本医学会総会 博覧会にて日本放射線技術学会、日本医学放射線学会、日本放射線科専門医会・医会、日本診療放射線技師会にて放射線に関連する展示を実施し、本学会では特に生殖腺シールドに関するパネル展示を行った。
  - 我が国の小児 CT 検査で患児が受ける線量の実態調査班(班長:竹井泰孝)が本年度より活動を開始する。小児 CT のDRLのベースデータとなる調査を行う調査班である。
  - 幼児・小児の撮影線量と画質のバランスに関する検討班(班長:広藤喜章)が本年度より活動を開始する。
  - 日本救急撮影技師認定機構の外傷全 CT の被ばく線量調査 WG に協力する形で調査が実施されている。
- ・ 日本放射線腫瘍学会(説明者:小川氏)
  - 報告事項なし
- ・ 日本保健物理学会(説明者:小野氏)
  - 医療被ばく国民線量評価委員会を立ち上げ、定期的、持続的に国民線量評価を行った行くための仕組みを構築していく。HPに議事録が掲載されている。
  - 昨年11月に日本保健物理学会・日本放射線安全管理学会の合同大会を開催し、その中で、医療被ばく国民線量評価のシンポジウムを開催した。

## (7)その他

### i. DRL-WG、モダリティ別 PT メンバーの COI 申告について

細野代表より以下のように本議題の背景について説明が行われた。

- ・ 昨今、医療分野で指針等を策定するとき策定メンバーのCOIを強く問われる傾向にあり、日本医学会においてもCOIに関する指針をしっかりと定めている。
- ・ 診療放射線の管理について医療法施行規則に基づきDRLによって診療放射線の管理や記録をするということが示されている。
- ・ このような状況からDRL-WG等においても従来以上にCOIの管理を進めるべきであり、DRL-WG、モダリティ別 PT メンバーの先生方の身を守ることになる。

赤羽 DRL-WG 主査より今回の COI の方針について説明が行われた。

- ・ 前回は各人が自己申告書の内容を確認し、COIの有無をWG主査またはPTリーダー

一に回答、COI 有の場合は該当者に自己申告書の提出を求めた。

- ・ 前回の方法は特殊な方法であり、COI がない場合提出していないというのは適切ではないとの指摘を受ける可能性がある。
- ・ 今回は全てのメンバーが COI の有無に関わらず COI の申告を行うのが良いのではないかな。

また、細野代表より COI 申告と管理について以下のような方法が提案された。

- ・ COI 管理については日本医学会の COI ガイドラインに準じる。
- ・ DRL-WG,モダリティ別 PT メンバーは全員 COI 申告書を事務局に提出する。
- ・ COI 申告書は事務局が管理する。
- ・ 提出された COI に対して疑義が生じた場合は、J-RIME 代表・代表代行、DRL-WG 主査、事務局担当者にて判断を行う。

## ii. 総会議事概要の公開について

事務局より総会議事概要の公開について背景について以下のような説明が行われた。

- ・ 近年の総会の開催方法について新型コロナウイルス感染症対策として WEB 開催としていましたが、団体会員の増加もあり、日程調整・旅費の負担などを考慮し、今後についても WEB 開催とさせていただきたい。
- ・ 一般のオブザーバ参加のための開催案内などは行わないため、議事概要を HP に掲載することとしたい。
- ・ 議事概要の早い公開のため概要確認と確定をメールにて行うこととしたい。
- ・ 過去の議事概要についても掲載を検討したい。

議事概要について早期の確認と HP の公開について承認された。また、過去の議事概要については各学会に一度回覧をお願いし、反対意見等がなければ公開することとした。

## iii. ICRP2023 について

神田副代表からスライド資料を用いて ICRP2023 の案内が行われた。ホームページやプログラム案についての説明が行われ、参加登録が呼びかけられた。

- ・ 厚労省山田先生より日本診療放射線技師会の報告の中での医療被ばく低減施設認定の新規申請が中止となっている点について、再開予定などの状況について質問が行われた。
- ・ 日本診療放射線技師会鈴木氏より現段階では再開のめどが立っていないが、委員会の中で訪問審査以外の方法や人数を縮小しての訪問などを検討している。
- ・ 厚労省山田先生より医療被ばく低減施設認定は非常に重要なことであり、感染症の

数も減ってきているので、ぜひ再開してほしいとのコメントがあった。

厚労省山田先生、安樂先生より本総会についての総括的コメントが行われ、細野代表より閉会の辞が述べられた。

以上